歴史文化講演会 in 会津若松

誇りの「義」未来に伝える

現代でも色あせない 信念を持った生き方

教え全国に広めたい

日本や地域の歴史を学び、現代に生かす「歴史文化講演会in会津若松」は昨年12月9日、会津若松市の会津藩校日新館で開かれた。「ならぬことはならぬものです―次世代へのメッセージ」をテーマにパネルトークが行われ、会津松平家14代当主の松平保久さん、白虎隊士飯沼貞吉の孫で白虎隊の会会長の飯沼一元さんが会津藩の教育の意義を語り合った。会津歴史観光ガイド協会理事長の石田明夫さんが進行役を務めた。基調講演では徳川宗家19代当主で徳川記念財団理事長の徳川家広さんが「現代につながる江戸の教え」、水戸徳川家15代当主で漢字文化振興協会長の徳川斉正さんが「水戸藩の藩校・弘道館の教え」をテーマに持論を展開した。家広さんと斉正さんの2人によるトークも行われた。

■会津藩の教育

石田　会津藩校日新館では、どのような教育が行われていたか。

松平　日新館が創設されたのは1803年、会津藩5代藩主の松平容頌公の時。当時は（全国各地で）藩校ブームが起きていた。関ケ原の合戦から200年。血で血を争い、権力を奪う戦国時代が終わってから、経済が安定して教育に目が向くようになるまで長い時間がかかったのだろう。会津藩は人材育成の集大成として、日新館をつくり上げた。この頃には武力は形骸化していて、（教育者に）刀を抜いて人と戦ったことがある人はいなかったが、日新館は文武両道の人材育成を目指していた。水泳を学べるプールのようなものがあったことからも、それが分かる。

石田　戊辰戦争が終わり明治時代になると全国各地で会津出身者が活躍するようになった。日新館の教育はどのような影響を与えていたのか。

松平　会津藩は戊辰戦争で朝敵の汚名を着せられた。藩主は会津に残れず、南へ、北海道などへ流罪となり、大変な苦労をした。明治時代、学力があって努力をしても、会津出身者というだけで要職には就けなかった。そんな中で、東京帝国大学の総長を務めた山川健次郎さん、NHK大河ドラマの題材にもなった山本（新島）八重さん（京都府顧問、府会議長、京都商工会議所会頭などを歴任した）兄の覚馬さんらが出てきた。私が京都の人と交流した時に「覚馬さんのおかげで今の京都がある」と言われ、大変誇らしかった。八重さんは晩年、新聞のインタビューに「つらい戊辰戦争を乗り越え、今まで生きてこられたのは日新館の教えがあったからだ」と語っている。日新館の教えが特徴的だったのは、日新館童子訓という教科書のようなものが各家庭に配られていたことだ。母、きょうだいら女性は日新館に入学できなくても、日新館童子訓を通じてその教えに触れることができた。（インタビューの）当時、八重さんは80歳を超えていたが、日新館童子訓をしっかりと暗唱できたそうだ。

■什の掟の精神

石田　会津若松市は今の時代も「あいづっこ宣言」という形で日新館の什の掟を分かりやすく伝えている。什の掟を県内、全国に広めていくべきだと考えるが、どう思うか。

松平　（什の掟の）とどのつまりは「人としてどうあるべきか」。人間としての振る舞いには、決して破ってはならないことがある。理屈ではなく、（什の掟の締めくくりの言葉である）「ならぬことはならぬ」ということ。この精神は時代が変わっても、決して色あせるものではない。現代、未来へとずっと伝えていってほしい。

飯沼　平和を求めるのは非常に辛抱強く続ける必要があり、難しいことだが、（戊辰戦争で敗れた）会津だからこそ持っている平和への鍵があると思っている。現在、ウクライナやパレスチナでの戦争は収まることなく拡大する一方で、世の中がすさんでいる。こんな世の中で何が大事かといえば、会津の教えの中にある「ならぬことはならぬ」の精神だ。これを逆に言えば「何でもありでは、駄目だ」ということ。自分の損得や利益ばかりを追求してはならない。会津の中ではずっと「義」の精神が培われてきた。義は簡単に言えば正しいことであり、正義。義をこれほど大切にして、犠牲を払って生きてきたのは会津人しかいない。義は生き方の規範。筋を通し、信念を持った生き方をする。それを表現したのが「ならぬことはならぬ」という教えだ。現代の政治家は「（悪いことをしても）ばれなければいいだろう」と思っているのか、政治の世界ではさまざまなことが起こる。どこかで歯止めをかけなければならない。

石田　若い人たちへのメッセージを。

飯沼　利益を追求するのは悪いことではないが、損得勘定を最優先してしまうと戦争が起こる。自分だけ良ければいいという考えになれば、武力での解決になってしまうからだ。平和の実現には義が大切。会津人は長年、苦汁をなめてきたが、義をずっと通してきたことを恥じることはない。義の精神を誇りにし、大きく育てて継承してほしい。

石田　日新館の教えは什の掟に分かりやすく表現されている。什の掟には「ひきょうな振る舞いをしてはなりませぬ」「弱い者をいじめてはなりませぬ」など現代にも通じる教えがある。人材の育成が大事だという思いが込められている。

進行役

会津歴史観光ガイド協会理事長　石田 明夫さん

いしだ・あきお　1957年、会津若松市生まれ。大河ドラマ「天地人」で時代考証に関わり、「八重の桜」では撮影に協力した。

白虎隊の会会長　飯沼 一元さん

いいぬま・かずもと　1943年、仙台市生まれ。東北大工学部卒。同大で工学博士を取得。2010年に白虎隊の会を設立した。

会津松平家14代当主　松平 保久さん

まつだいら・もりひさ　1954年、東京都生まれ。学習院大法学部卒。NHKで番組制作を担当。最後の会津藩主松平容保のひ孫。

主催　福島民友新聞社、漢字文化振興協会、徳川記念財団
後援　徳川ミュージアム、県、読売新聞東京本社福島支局、福島中央テレビ、ふくしまFM
協賛　会津若松商工会議所、東京海上日動火災保険